**第17課　ヨシャパテの改革　2018.4.29**

◎ 賛美(一同) :韓日511番、韓日512番

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条

◎ 御言葉朗読(一同) : Ⅱ歴代誌17章3∼6節

◎ 本文朗読　◎ 主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

私たちは毎日、内なる人が新しくならなくてはなりません。このために何よりも、私たちの中にある偶像を追い出さなくてはなりません。自分が神様よりも、もっと愛するものならば、何であっても偶像になりえます。私たちの心に偶像があるならば、悔い改めて立ち帰り、神様中心、みことば中心の人生を生きなくてはなりません。

**1. 神様第一主義の信仰**

ユダの王たちは神様を離れ、バアルに仕えましたがヨシャパテ王は真実な神様の人ダビデのように神様に仕えました。第二歴代誌17章3～4節は“3主はヨシャパテとともにおられた。彼がその先祖ダビデの最初の道に歩んで、バアルに求めず、4その父の神に求め、その命令に従って歩み、イスラエルのしわざにならわなかったからである。”と言います。

ダビデの信仰は他の何よりも神様を一番に優先視する神様第一主義の信仰を意味します。ヨシャパテはダビデの道、すなわち神様第一主義の信仰に従ってユダを改革しました。ユダの地でバアルに仕えることを禁止しヤーウェ信仰を回復しました。弱い者を弾圧することを止め、神様の憐みと正義に従うようにユダの政治と経済を変えて行きました。すると神様が彼を栄えるようにし、ユダに平安を与え、栄えるようにされました。

私たちが人生を生きながら、一番重要なことは、神様第一主義の信仰によって生きることです。神様は私たちが他の何よりもまず、神の国とその義とを求める時、他の全てのものの責任を取ってくださると約束してくださいました。神様は心から神様を信じ、頼り、捜し求める者を助けられるお方です。神様に私たちの人生を捧げるならば、神様がその人生を栄えの道へと導いてくださいます。まだ世のお金や名誉、自分の知恵と人脈に頼っているならば悔い改めてください。どんな状況でも私たちの人生も優先順位を神様に置き、神様第一主義の信仰を所有しましょう。

**2. みことば中心の信仰**

ヨシャパテ王は王位を引き継いで3年目になる年、つかさたち、祭司長とレビ人を選んでユダ全域を巡りみことばを教えるようにしました（Ⅱ歴代誌17：9)。彼はみことば中心の信仰生活を制度的に実行した王でした。当時は祭司長やレビ人だけが神様のみことばを教えましたが、ヨシャパテ王は行政官僚であるつかさたちも祭司長とレビ人と共に全国を巡回し全ての民たちにみことばを教えるようにしました。これはみことばを通した霊的な宗教改革でした。

たとい国に存在する偶像を燃やしてバアルに仕えられないようにしても、彼らの心の中に心から神様を求める心を植えられなければ結局人々は再び偶像崇拝に陥ります。ですからヨシャパテ王は王とつかさたちと全ての民たちが神様のみこころを悟り、従順する人生を生きるように民たちの人生の中にみことばが深く根を下ろすようにしたのです。

まことの改革は私たちを神様のみことばの前へと導き、みことばが導くまま生きることを言います。神様のみことばはいのちであり、喜び、恵み、祝福です。また神様のみことばは、私たちが神様に出会う通路です。私たちの人生がみことば中心の人生になる時、まことに神様を喜ばせることができます。みことばによって個人の生活と家庭と社会を変化させ、神様と共に歩む驚く祝福を受けることを願います。

**3. 悔い改めて正しい道に行く信仰**

ヨシャパテ王の当時、イスラエルの人々はヤーウェ信仰を捨てバアルとアシェラに仕えました。彼らはカナンの地に定着し、農業をして暮らすようになったので、雨を与えるバアルに仕えなくてはいけないと考えました。イスラエルがヤーウェ神様を捨てバアルを選択したことは彼らの貪欲のゆえだったのです。

私たちは神様に仕えると言いながらも私たちの中の欲、すなわちバアルを一緒に仕えてはいないかを、見なくてはなりません。コロサイ3章3節は“ このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。”と言います。私たちは偶像崇拝から立ち帰り、悔い改めて正しい道へと行かなくてはなりません。神様とお金を天秤にかけたりしないで心から主に仕えなくてはなりません。

神様に良く仕えたヨシャパテ王は彼が王位に上がると彼の父アサ王の時代まで残っていた壇を全て壊し偶像を取り除きました。そして全国的な悔い改め運動を起こし、イスラエルの民たちがバアルとアシェラの偶像を取り除き、神様に戻ってくるようにしました。Ⅱ歴代誌19章4節は“シャパテはエルサレムに住んだ。それから、彼はもう一度ベエル・シェバからエフライムの山地に至る民の中へ出て行き、彼らをその父祖の神、主に立ち返らせた。”と言います。

神様との垂直的な関係が回復すると、この世での水平的な関係も自然と回復します。イスラエルが神様だけに仕えるようにしたヨシャパテ王はますます栄え、イスラエルの南北分裂以降の最高の全盛期を享受しました。私たちの中にある貪欲と利己心の偶像崇拝を捨て、神様に立ち帰り神様との関係を回復してください。そうすれば主が私たちの人生に驚く勝利と祝福を与えて下さるでしょう。

**◎マナの要約**

<神様第一主義の信仰>

1. ヨシャパテは他の何よりも神様を一番に優先視した王でした。

2. 私たちはお金、名誉、権力よりも神様をまず求める神様第一主義の信仰を持たなくてはなりません。

<みことば中心の信仰>

1. ヨシャパテは全ユダ地域につかさたち、祭司長とレビ人を送り、みことば教育をさせました。

2. 私たちはみことばの光が導くまま生きなくてはいけません。

<悔い改めて正しい道に行く信仰>

1. ヨシャパテ王はイスラエルをバアル信仰から立ち帰らせ、ヤーウェ神様を仕えるように導きました。

2. 神様との垂直的な関係が回復するとこの地での水平的な関係も上手くいきます。

◎ 私の人生のマナ

<隣の人と挨拶>

1. 神様を最高に仕えて生きましょう。

2. みことばに従順しましょう。

3.罪から立ち帰る悔い改めを捧げましょう。

<祈り>

1. 神様よりも好み、大切に思ったものがあるならば悔い改める祈りをしましょう。

2. みことばを読む時、その意味を悟ることができる知恵を求める祈りをしましょう。

3. 神様が与えられたみことばに不従順したことを悔い改める祈りをしましょう。

<とりなしの祈り>

隣の人と祈りの課題を分かち合い、共に祈りましょう。